

---

# お仕置き一懲りない奴ら。

Bloody orange

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お仕置きー懲りない奴ら。

### 【Nコード】

N2300T

### 【作者名】

B l o o d y   o r a n g e

### 【あらすじ】

快斗と新一の甘い生活。

その秘訣は、何とお仕置きにあり！

さて、今回のお仕置きはどんなお仕置き？

そして、快斗は、何をやったんでしょか？

## 秘訣

快斗はこの所ご機嫌だ。

と言つのも、この頃は全くお仕置きを受ける事が無くなったからだ。しかし……。

この数日後、快斗と新一に巡る世にも恐ろしい事が起こるのである。

話は、さかのぼ遡る事、二週間前の金曜日の夜だった。

此処、工藤邸には、お仕置きシリーズでお馴染みのメンツが揃って居る。

今回は、白馬が欠席だが……。

彼等が集まると何故か決まって、いつも新一が快斗にお仕置きをしているのが、いつものパターン。

なのに、いつまでも、新婚夫婦の様に仲が良い2人の秘訣を聞き出そうと、この男がやって来た。

平次から、『お前等なんやかんや言っても、ホンマに仲エエな』。

何か秘訣でもあるんか？』

快斗に横恋慕している、西の探偵服部平次。

父親は、大阪府警本部長の服部平蔵。母親は、色白美人で肝っ玉が据わった服部静華。

大学からは、快斗や新一と同じ東都大学に進んだ。

暇な日は必ずこの家に集まるのが日課になっている。

快斗は『やっぱり、愛だよ愛？ 俺と新一の間に他に何かある？』

黒羽快斗 仮の姿は、怪盗キッド。

父親は、今は亡き世界的なマジシャン 黒羽盗一 初代キッドだ。

母親は、派出好きな黒羽千影。

世界で1番新一が好きなマゾヒスト。

新一は、『お仕置きだろ。やっぱ。お仕置きは、愛情の印だからな。

激しくなるに連れて、それだけ俺の愛も激しくなるのさ。』

一見、冷静沈着で華奢に見えるが、超高校級のキック力には、高校サッカー界で 右に出る者は居ない。

世界的推理小説家の工藤優作を父に、有名女優の工藤 有希子を母親に持つ新一は、生まれながらの美貌と才知を活かす為に、探偵をして居る。

世界で一番好きなのは、パートナーの快斗とお仕置きである。

自他共に認める音痴で、サディスト。

平次の目は快斗の事を見ていた。

快斗が、パンプレットを持って来た。

それは、アリーナ自然の森の牧場のパンプレットだった。

『新一！此処に行こうぜ！空気は美味しいし、牛も馬もいるし、乳搾りも出来るし……。』

快斗の言葉に、服部は『快斗は、めっちゃ可愛いな。食べなくなるわ。』そう言う。

柳眉をつり上げながら新一は、『別に、この家の庭にも木々があるじゃないか。』

『それに、空気もいいじゃないか。』

『乳搾りは、お前が俺にやられているだろ。それでいいじゃないか。』

快斗の言葉は、悉く 新一の心ない言葉に打ちのめされて行った。

『新一、それに、俺は牛じゃないから、ミルクなんて出ないぞ！牛の乳搾り体験をした後で、できたてのアイスを食べるんだよ。バナナなんだよ。ねえ！行こうよ。』新一が行かなきゃ。白馬か、服部を誘おうかな。ついでに、服部と一緒にの部屋にでも泊まって、いけない事でもしちゃおうかな。』

快斗がそんな事を言っている間、プルプルと震えている新一の肩。

新一は、『お仕置き決定！』と一言言うと快斗の首根っこを捕まえて、バスルームに連れて行った。

それを横目で見ていた平次。

『相変わらずやな。お仕置きがいのあるやつや。』

そう言つて笑つていた。

洋服のまま、バスタブの中に快斗を入れると、100円ショップの魚のおもちゃをドボドボ入れた。

そして快斗に『コレがお前への愛だ。』

そう言つて笑うと新一が、バスルームから出て行つた。

新一と入れ替わる様に、バスルームに入つて来たのは、平次だった。平次は、快斗に手を貸すと、『快斗。お前も懲りないヤツやな。』

工藤が、すぐに休みを取って行く訳ないやろ。面白い事件でもあれば、すぐに行きたがるから、そう言つてこを探せばエエんや。そうやな、一晚俺のモノになれば、工藤を誘つてやつてもエエで。どうや?』

ここで、快斗は悪魔の誘いに乗ってしまった。

## 悪魔の誘い

平次の悪魔の誘いに乗ってしまった快斗は、平次と一晩一緒に居る約束をする事になった。

そんな事とはつゆ知らず、名探偵の工藤新一は、今日も小説を読みふけていた。

昨日、快斗が言っていた牧場の事を思い出し、そのパンフレットを見ていた。

『ふうん。結構面白そうなのがあるんじゃない。でもな、事件がなかったら行かねえーな。』

その一言だ。

やっぱり事件なのだ。

快斗と平次が色々と相談している時に、やって来た人物が居た。

その人物を見た2人は、彼らを仲間に入れていつの間にか『新一を外に連れ出す作戦』になった。

殺す気か??

結局、快斗が持って来たパンフレットの牧場に行く事になった。だが、怪文書が送りつけられてきたので行くだけだ。

服部も誘ったが、先に現地で待つと言われた。

快斗と2人でアリーナの森に行く事になった。

行き当たりばつたりのB型としつかり行き先の情報収集を集めて来たAB型の新一。

既に、この頃からは、嫌な予感がして来た。

途中の山道では工事をしていた。

今回は、快斗がハンドルを握っている。俺は連日の事件を片付ける為に、連夜徹夜をして、事件を洗い直し、見事解決させた。

今回も怨恨が原因の殺人事件だった。

充血した目を閉じると少しだけ眠る事にした。

このアリーナの森の牧場にきたのが、そもその間違いだったのかも知れない。

余りの揺れに目を覚ますと、

大型のダンプカーが俺達の車の前に居た。2車線だった山道が、段々と細くなり、ダンプカーによって舞い上げられる砂埃が、煙となつて、俺達の車に襲つて来る。

折角、昨日洗車したばかりの新一の車は、砂埃で真っ白になった。

『黒い車なのに、埃だらけになつたぜ。』

嫌な予感がして来た。

目の前のダンプカーが止まると、向かい側のダンプカーがヘッドライトをちかちか点灯させて来た。

快斗に『待て!』と言ったが快斗は『これは、俺達に先に行けと言う合図なのさ?』

さも得意げにそう言って来る快斗に『絶対に違う!』と言う俺の意見など無視で、車を急発進させた。

新一は、顔面蒼白になった。

向かい側のダンプカーがヘッドライトを点灯させたのは、俺達の車を先に行かせる為ではなくて、俺達の前にいたダンプカーに先に通る様に道を譲ってくれていたのだ。

もちろん、快斗は急に目の前に現れたダンプカーに驚いてハンドルを左に切った。

今度は左からのダンプカーが近づいているのに気がつく、急いでハンドルを右に切った。

『快斗くテメー、俺様を殺す気か??』

そう新一が叫ぶと、快斗は『ちよつと失敗しちゃったね。』

そう言って来る

俺の心臓は、フロントグラスに張り付く所だったんだぞ?

動悸が収まらない俺の身体は、滝の様な汗が噴き出して来る程の恐怖だった。

新一は、『はあはあ』言っつと心臓を抑えた。

『新一く大袈裟すぎだよ。』

そう言っつと、快斗は笑っていた。

俺は、あの二台のダンプカーの間をすり抜けて行つたあの瞬間、これ迄の人生が走馬燈のように俺の頭の中で流れていたんだぞ!

殺す気か?? (後書き)

ダンプカーの話は、事実です。

あ、死ぬかもしれない・・・と真面目に思っちゃいました。

## 殺人犯は服部平次？

アリーナの森の牧場に呼ばれた俺達は、ある事件の容疑者が服部平次だと言われて、飛んで来たのだ。

何でも、服部が二年前に解決した事件が間違っ居ると言う怪文書が服部平次の所と俺、工藤新一の所へ送られて来た。

服部にも、どう言う事なのかを聞く前に、アリーナの森の牧場で服部が殺人事件に巻き込まれた。

ただ、その時の新聞記事には、牧場主で日系人の彩の父親が夫人と旅行中に車の事故で亡くなったと書いてあっただけだった

服部は、その事件を彩の父親、ナイトさんの持病の心臓発作でハンドル操作を誤り崖から転落死したと解いた。

だが、彩は『父は、持病の発作など無かった！もう一度、調べ直して欲しい』そう訴えていた。

服部が二年前の現場に駆けつけるとそこには、彩がいた。

彩は『あんたなんか大嫌い！パパは、持病なんか持ってなかったわ！』そう叫ぶと、服部の横を通り過ぎて行った。

服部がその夜、忽然と消えてしまった。

そして、二年前の事故現場には彩が腹部を刺されて倒れていた。

姉の彩が帰ってこないのを心配した七海が、事件現場に行く途中で血塗れの服部平次を見かけた。地面に点々と続いていた血を見て、

『まさか？ お姉ちゃん？！』そう叫ぶと、二年前の転落事故現場で、血まみれになって倒れていた七海を見つけた。

七海と一緒にいた駐在さんは、『彩さん』そう叫ぶと、救急車と警察を呼んだ。

ようやく、東京から命からがらアリーナの森の牧場に着いた快斗と新一は、七海から『人殺しを庇う為に東京から来たんでしょ?』そう言ってくる、いきなり新一の事を睨んで来た。

一体何があったんだ? そう思った2人は、駐在さんから話を聞くと、牧場主の娘で双子の彩と七海がいるのだが、二人共 父親っ子だったと言う事を話してくれた。

そして、今朝 彩が腹部を刺されて倒れていた現場は、二年前に服部が解決した事件―その双子の両親の転落事故現場に付近で、返り血を浴びた服部と遭った。

服部は「お、俺は違う……。一体何があったんや……。」「ワナワナと震えながら両膝を着くと平次を取り押さえようとした駐在さんの腕を振り切って山奥へ逃亡してしまった。

現場には、服部と彩、七海そして、駐在さんの足跡しかないのだ。そして、武器とみられる妖刀村正が木に突き立てられていた。

その刀からは、彩の指紋と血痕そして、服部の指紋が見つかった。服部は昨夜から行方不明になっていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2300t/>

---

お仕置き一懲りない奴ら。

2011年9月13日11時18分発行